

大切な場所を意味づける個人の経験の特徴 -横浜市青葉区藤が丘地域を対象として-

1X22D073 平野彩愛*

明確な歴史的資源や象徴的景観のない地域においても、日常生活における経験の蓄積により、個人の内面に大切な場所が形成されている。再整備に際して、住民にとっての大切な場所とその意味を可視化することは、地域の文脈を尊重した持続的なまちづくりを行う上で重要である。本研究では、再整備が進行する地域の住民を対象としたアンケート調査を通して、大切な場所とともに想起される経験を把握し、住民の主観的な場所への意味づけについて明らかにした。その結果、親しい人と共有された具体的な体験の場、景観への愛着の場、個人的な日常や習慣の一部となっている場、場所の存在に価値を感じる場が大切な場所となっていることが示された。

Key Words : 大切な場所, 場所への愛着, 生成的コーディング, 多摩田園都市

1. 序論

(1) 研究の背景と目的

高度経済成長期の土地区画整理事業によって整備された多くの大都市近郊地域では、住宅の大量供給という役割の終焉や生活関連施設の老朽化などに伴い、再整備の時期を迎えている。都心への通勤圏として整備されたこれらの地域では、明確な景観資源は少なく、居住選択に際しても主に機能的要因が重視される傾向にある¹⁾。一方で、ランドルフ・T・ヘスターは、日々の生活が具体化した家庭的で平凡な場所が、コミュニティにとっての「聖なる場所」となり得ることを指摘している²⁾。本研究では、日常生活における経験の蓄積が場所への主観的な意味づけを変化させ、個人の内面に「大切な場所」が立ち現れるという仮説に立ち、大切な場所の意味に着目する。再整備に際して、住民にとっての大切な場所とその意味を可視化することは、地域の文脈を尊重した持続的なまちづくりを行う上で重要である。

以上の背景を踏まえて、住民にとっての大切な場所がどのような経験と結びついているのか、その諸相を明らかにすることを本研究の目的とする。具体的には、再整備が進行する地域の住民を対象としたアンケート調査を通して、地域内の大切な場所と大切に思う理由を把握する。得られた大切な場所について、住民の主観的な場所の意味づけを把握し、日常的な場所がどのような経験によって大切な場所となっているのかについて明らかにする。

(2) 既存研究の整理と本研究の位置づけ

a) 既存研究の整理

大切な場所に関しては、大切な場所とそこでの想起の特性を明らかにしたもの³⁾や、大切な場所と大切に思う理由から地域の構造を明らかにするもの⁴⁾、地域資源としての場所の価値を住民の経験に基づいて評価するもの⁵⁾がある。

大切な場所と関連する概念である場所への愛着に関する研究は多分野で蓄積されており、場所への愛着を定量的に分析するもの⁶⁾や、場所への愛着について一般的に議論するもの⁷⁾などがある。

さらに、地域景観認識に関する研究としては、アンケートを用いたもの⁸⁾や、写真投影法を用いたもの⁹⁾、WSを用いたもの¹⁰⁾などがあり、地域とのかかわりの中で「個人の風景」が形成されることを示唆している。

b) 本研究の位置づけ

以上の既存研究では、経験に基づく愛着形成や属性別の景観認識が論じられてきたが、特定の地域において、場所に蓄積する思いやその意味を一体的に扱った研究は少ない。本研究では、日常的な行動や経験が、場所に対する思いの醸成にどのように関わるのかに着目し、大切な場所とその場所への意味づけを明らかにすることを特徴とする。また、開発から半世紀が経過して再整備の時期を迎える地域を対象地に選定し、風景の変容により顕在化する思いを可視化しようとする点に独自性がある。

(3) 研究の流れ

研究のフローを図-1に示す。本研究では、地域住民を対象としてアンケート調査を実施し、分析を行う。第2章で対象地を選定し、第3章で、アンケートを集計、挙げられた大切な場所を可視化し、そこでの経験に関する質的分析を行う。その後、第4章で個人の大切な場所の意味づけについて多変量解析によって明らかにし、第5章で明らかになったことを整理して大切な場所の意味ついてまとめる。

2. 研究対象地の選定および概要

(1) 対象地の選定

本研究の対象地として、多摩田園都市に位置する横浜市青葉区藤が丘地域を選定する。多摩田園都市は、1966年の東急田園都市線開業に合わせて、鉄道と市街地整備が一体的に進められた郊外住宅地である¹¹⁾。再整備が進む地域の一つである藤が丘地域は、大規模施設や歴史的景観は少なく、日常生活に密着した小規模店舗、病院、公園などの生活関連施設によって構成されており、日常的な経験と場所の結びつきを具体的に捉えることが可能である。以上の理由から、本研究では藤が丘を対象に生活に根ざした大切な場所の抽出とその背景の分析を行う。

(2) 藤が丘地域の概要

本研究では、藤が丘駅を中心とした周辺7地区(もえぎ野・柿の木台・藤が丘一丁目・藤が丘二丁目・千草台・梅が丘・下谷本町)を「藤が丘地域」と定義する。藤が丘地域の面積は3.426km²であり、17,831世帯、36,428人が居住する¹²⁾(2024年時点)。図-2の概要図に示すように、地域の大部分は住居系の用途地域であり、公園も多いことが特徴である。

藤が丘駅周辺地域は、1966年の藤が丘駅開業と1967年までの土地区画整理事業から現在まで発展してきた。整備から半世紀ほど経過した現在、施設の老朽化や住民の高齢化により機能更新の時期を迎えており、WSや意見募集を経て、2025年3月に「藤が丘駅前地区再整備基本計画」¹⁶⁾が策定された。再整備の対象地は図-2の赤枠の範囲である。

3. 藤が丘地域における大切な場所

(1) アンケート調査の概要

本章では、藤が丘地域の住民を対象に実施したアンケート調査の結果から、大切な場所と想起される経験の特徴を整理する。2回にわたって実施したアンケート調査の概要を表-1に示す。

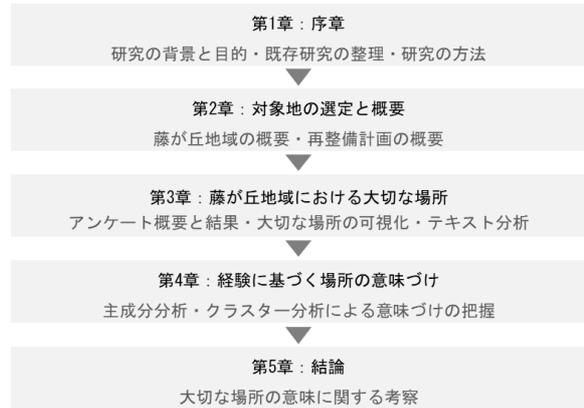


図-1 研究のフロー図

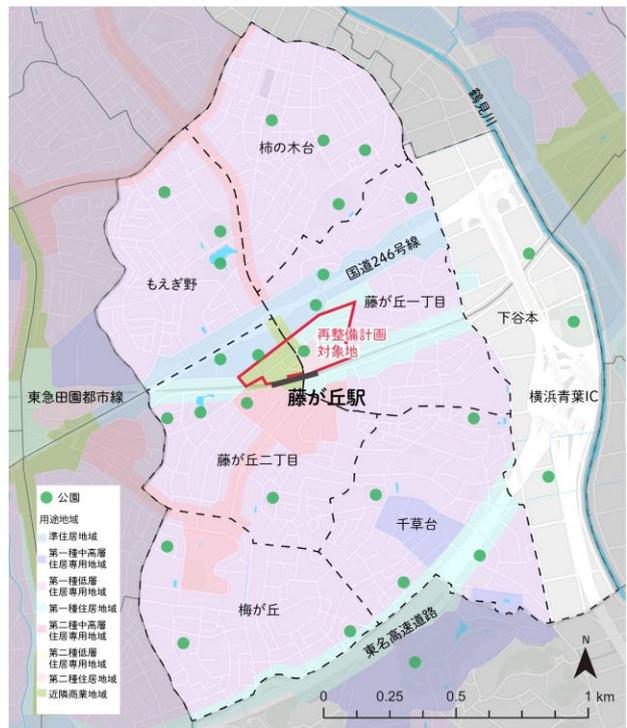


図-2 藤が丘地域の概要図

表-1 アンケート調査の概要と主な質問項目

	1回目	2回目
配布方法	藤が丘地区センターへの設置および直接配布	ポスティング (藤が丘地域1090世帯)
配布日時・期間	2025年10月29日 ～11月11日(2週間)	2025年12月2日配布 12月13日回答締切
回収形式	設置した回収箱への投函 Google Formへの回答	Google Formへの回答
回収数	33件	68件
主な質問項目		
属性	性別・年齢・住んでいる地区	
藤が丘とのかわり	居住年数・藤が丘駅までの交通手段・藤が丘での散歩の頻度	
大切な場所	「現在大切に思う場所や風景」 「大切だった場所や風景」(最大3つ)	
それぞれの場所について	大切に思う理由・思い浮かべる風景や思い出など	
	その場所に誰と行くか	
	その場所の変容の有無	
	その場所に行く頻度・行っていた頻度	

(2) アンケートの集計結果

以降の分析では、2回の同じ内容のアンケート調査の結果を合算する。回答者属性を表-2に示す。

アンケートからは計218件の大切な場所と、そこに紐づく経験に関する記述を得た。所在が明らかな61か所について、回答者の居住地区を円グラフに集計し、図-3の地図上に示す。円の大きさは回答数を示す。最も多く挙げられた場所は藤が丘公園で30人に挙げられ、次いでもえぎ野公園が28人に挙げられた。分布に着目すると、再整備対象範囲である駅周辺に大切な場所が集積している。また、居住地区より、藤が丘地域全域の住民に広く大切に思われる場所、主に周辺地区の住民に大切に思われる場所、個人的に大切に思われる場所があることが確認できる。

表-2 アンケート調査の回答者属性

性別(101)		
男	女	回答しない
41	58	2

居住地区(101)					
藤が丘1丁目	藤が丘2丁目	千草台	物が丘	もえぎ野	柿の木台
15	33	14	9	13	17

年代(101)							
10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
2	14	6	14	33	19	9	4

居住年数(101)						
1年以内	3年以内	5年以内	10年以内	20年以内	30年以内	30年以上
2	2	4	9	31	32	21

散歩の頻度(99)			
ほぼ毎日	週に数回	月に数回	あまりしない
27	22	19	31

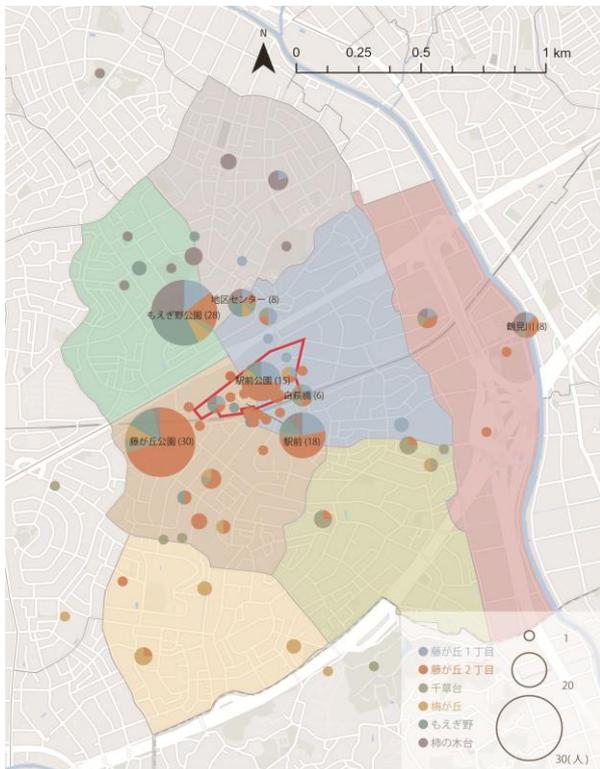


図-3 藤が丘地域における大切な場所

(3) 大切な場所における経験の内容

a) 時間軸による分類

大切な場所とともに想起された経験に関する218個の自由記述について、時間軸を現在、過去、今昔(過去と現在の2時点)の3つに分類した。例えば、「子どもたちを連れてよく遊びに行った」という記述では、時間軸は過去となる。

年齢ごとの3つの時間軸の想起数を図-4に示す。全体では過去の記憶が最も多く想起された一方で、70代以上は現在と過去が同数、30-40代では過去の想起が多い。また、30-40代以上では、現在の経験と過去の経験の両方を想起する記述も確認できた。以上より、年齢によりいつのことを想起するかの傾向が異なることが確認できた。

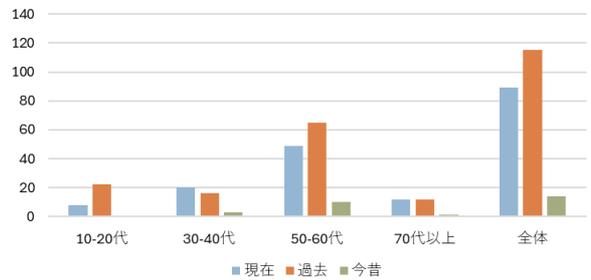


図-4 年齢別の想起内容の時間区分の傾向

表-3 大切な場所での経験に関する抽出コード

		経験	現在	過去	今昔	計
主 体 的 な 関 わ り	A	親しい人との経験：家族や友達と結びついて想起される経験				
	A1	子育て 自身の子育てにおける経験 例：子どもを連れて～、子どもが小さい頃～	3	47	10	60
	A2	家族 家族やパートナー、愛犬や孫との経験 例：家族で毎年～、愛犬と～	8	22	5	35
	A3	友達・遊び 子ども時代の友達との思い出 例：友達と～、子どもの頃～して遊んだ	0	17	1	18
	B	個人的文脈：自身の生活や習慣に関連する経験	31	23	5	59
	B1	日常 毎日のように意図せず繰り返されている経験 例：通学時に通る、通勤に使う	13	4	0	17
	B2	趣味・習慣 自身の趣味や習慣として蓄積された経験 例：よく散歩する、プールに通う	11	3	4	19
	B3	ライフイベント 人生における特別な経験 例：出産、入院、入学式、受験	1	7	0	8
	B4	癒し その場所で落ち着きを感じるという経験 例：癒し、落ち着く、ほっとする	6	5	0	11
	B5	母校 自身がその学校に通った経験 例：通っていた	0	4	0	4
	C	固有体験：その場所特有の具体的な経験	20	28	8	50
	C1	自然とのふれあい その場所で行われた自然とのふれあい 例：ザリガニ釣り、生き物観察、花見	3	14	2	19
	C2	イベント 祭りなどの地域イベントへの参加 例：毎年のお祭り、小学校の運動会	4	8	4	16
	C3	地域交流 地域の他の住民との交流 例：ママ友とつながる、髪がりができた	9	1	0	10
	C4	参拝 その場所で参拝するという経験 例：初詣、神頼み	4	2	0	5
物 理 的 環 境	D	環境：その場所での感覚的な経験	48	20	2	70
	D1	眺望 空や遠くの景色など、手の届かないものを眺めた経験 例：富士山が見える、電線が見える	6	5	0	11
	D2	自然・季節 自然や季節を感じるという経験 例：季節を感じる、雪が降ると～、秋になると～	34	13	2	49
	D3	賑わい 賑わいを感じるという経験 例：子どもたちの元気な声	6	1	0	7
D4	設え お店や看板、モニュメントなどの設えに対する印象 例：ロータリーの噴水が～、看板が～	2	1	0	3	
存 在 価 値	E	過機：過去の記憶や寂しさを想起するという経験	8	17	2	28
	E1	回想 他の場所を想起するという経験 例：～を思い出す、～に似ている	4	2	0	6
	E2	追悼 亡くなった人やペットに関する経験 例：亡くなった夫と～、亡くなった愛犬と～	0	4	1	5
	E3	ノスタルジー 今はない場所や、もうすぐ失われる場所での経験 例：以前は～だった、開発でなくなってしまう	4	11	1	17
	F	アイデンティティ：その場所にアイデンティティを感じるという経験	7	6	0	13
F1	地域らしさ その場所に地域らしさを感じるという経験 例：藤が丘のシンボル、藤が丘らしさ	7	6	0	13	

b) 経験の内容による生成的コーディング

また、218 個の自由記述について、経験の内容により生成的コーディングを行った。抽出したコードをグループ化することで、表-3 のような 20 コードと 6 分類を得た。例えば、「小学生の頃よく遊んでいて、中学の時もお祭りなど楽しい思い出が沢山あるから」という記述では、「友達・遊び(A3)」と「イベント(C2)」の 2 コードが得られる。

6 分類では「親しい人との経験(A)」が 115 件と最も多く、そのほとんどで過去の記憶が想起されている。22 コードでは、「子育て(A1)」に次いで「自然・季節(D2)」が多く想起されている。

(4) 想起率による比較

経験の出現傾向を属性や場所ごとに比較するため、想起率 p_i を用いた。例えば、ある年代における「子育て(A1)」の想起率は以下のように算出される。

$$p_{A1} = \frac{\text{その年代における「子育て」の出現回数}}{\text{その年代におけるすべての経験の出現回数の和}}$$

各コードの想起率を年齢別に示したプロフィールチャートが図-5 である。最も想起率の高いコードは、10-20 代では「友達・遊び(A3)」、30-60 代では「子育て(A1)」、70 代以上では「自然・季節(D2)」であり、年齢ごとに傾向が異なることが確認できる。また、「ノスタルジー(E3)」と「アイデンティティ(F1)」は、30-40 代における想起率が比較的高い。

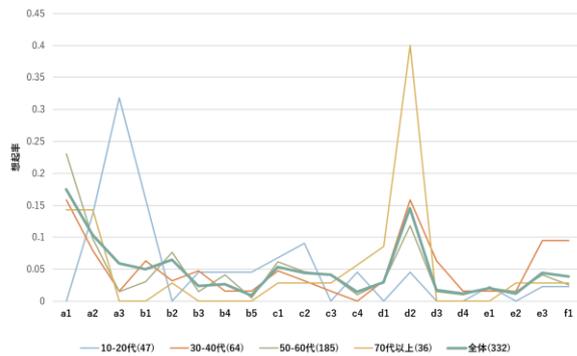


図-5 年齢別の各コードの想起率

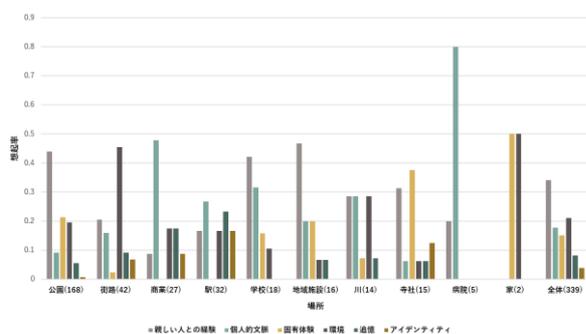


図-6 場所種別ごとの各分類の想起率

さらに、場所種別ごとの 6 分類の想起率を図-6 に示す。想起数の少ない病院と家以外では、6 つの分類のうち 5 つ以上が出現している。「親しい人との経験(A)」は公園、学校、地域施設において、「環境(D)」は街路において想起率が高い。また、「追憶(E)」や「アイデンティティ(F)」の想起率は駅が高い。

(5) 想起エントロピーによる比較

想起の多様性を表す指標として、想起エントロピー S がある。想起エントロピーは、想起率 p_i を用いて以下のように算出される。

$$S = \sum -\log_2 p_i$$

例えば、特定の場所に関する 6 分類の想起エントロピーは、 $-\log_2 p_A$ から $-\log_2 p_F$ までの和となる。

3 人以上が挙げる具体的な場所 18 か所について、6 分類の想起エントロピーを算出した結果を図-7 に示す。一般的に想起数が多いほど想起エントロピーは高くなりやすいが、想起数の多い藤が丘公園やもえぎ野公園よりも、再整備対象である藤が丘駅前公園の想起エントロピーが高い。

また、居住年数ごとの想起エントロピーの平均に関する箱髷図を図-8 に示す。この結果から、居住年数が長いほど想起が多様になる傾向が確認できる。

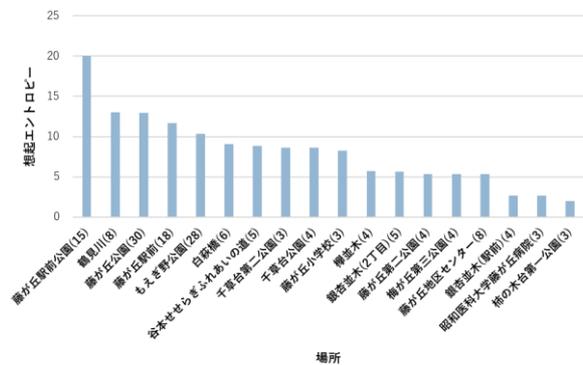


図-7 場所別の各分類の想起エントロピー

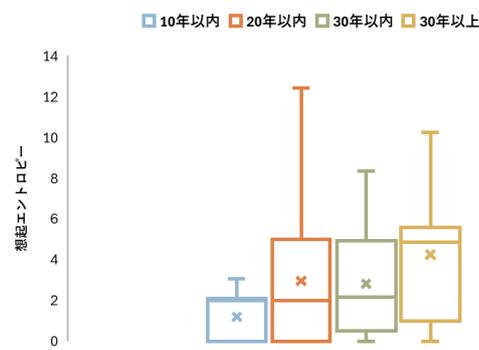


図-8 居住年数別の平均想起エントロピー

4. 経験に基づく場所の意味づけ

(1) 主成分分析による意味づけ構造の抽出

大切な場所は、経験の蓄積により場所に対する意味づけが変化することで立ち現れる。そこで、生成的コーディングにより抽出された経験の6分類について相関関係を整理し、経験に基づく意味づけの構造を抽出するため、個人の想起率を変数として主成分分析を行った。結果を表-4に示す。

成分行列より、第1成分は、人とのかかわりの想起で小さく、物理的環境の想起で大きくなる。第2成分は、具体的な体験の想起で小さく、抽象的な場所のイメージの想起で大きくなる。第3成分は、個人的な体験の想起で小さくなる。

(2) 大切な場所への意味づけの類型化

個人のどのような経験が場所を意味づけているかについて類型化するため、101人の主成分得点を変数として、ward法による階層クラスター分析を行った。得られた4クラスターについて、それぞれの主成分得点の平均、年齢の度数と割合について表-5に示す。また、20コードの想起率をクラスター別に示したプロファイルチャートが図-9である。

a) 各クラスターの解釈

各クラスターの特徴を以下のように解釈した。

CL1：共有体験重視型

第2成分が最も小さく、「固有体験(C)」のほか「子育て(A1)」の想起率も高い。よって、「大切な人との具体的な体験を想起する場」が大切な場所となっていると解釈できる。50-60代が7割以上を占める。

CL2：景観重視型

第1成分が最も大きく、「自然・季節(D2)」「賑わい(D3)」の想起率が高いほか、「ノスタルジー(E3)」の想起率も高い。よって、「景観に対する印象を想起する場」が大切な場所となっていると解釈できる。70代以上が比較的多く所属する。

CL3：日常・習慣重視型

第3成分が最も小さく、「日常(B1)」「趣味・習慣(B2)」の想起率が特に高い。よって、「自身の生活の一部として想起される場」が大切な場所となっていると解釈できる。10-20代が比較的多く所属する。

CL4：存在価値重視型

第1成分が最も小さく、「親しい人との経験(A)」の想起率が高いほか、「追憶(E)」の想起率も比較的高い一方で、「固有体験」は想起されない。よって、「場所の存在自体に価値を感じる場」が大切な場所となっていると解釈できる。10-20代と70代以上が比較的多く所属する。

表-4 主成分分析の結果

成分行列	第1成分	第2成分	第3成分
A：親しい人との経験	-0.913	0.024	0.134
D：環境	0.856	0.187	0.117
C：固有体験	-0.039	-0.888	0.153
F：アイデンティティ	0.101	0.575	0.218
B：個人的文脈	0.051	0.059	-0.942
E：追憶	0.043	0.441	0.529
固有値	1.783	1.346	1.133
累積寄与率(%)	29.712	52.148	71.039

表-5 クラスター分析の結果

		CL1	CL2	CL3	CL4	全体	
主成分		29	25	25	22	101	
主成分	1：環境-人	-0.330	1.323	-0.114	-0.770		
	2：抽象-具体	-1.121	0.281	0.178	0.742		
	3：一般的-個人的	0.365	0.212	-1.461	0.489		
年齢	10-20代	度数	3	0	8	5	16
		割合	0.107	0.000	0.400	0.172	0.158
	30-40代	度数	4	8	3	5	20
		割合	0.143	0.320	0.150	0.172	0.198
	50-60代	度数	19	10	9	14	52
		割合	0.724	0.440	0.440	0.409	0.515
	70代以上	度数	2	7	0	4	13
		割合	0.069	0.240	0.040	0.182	0.129

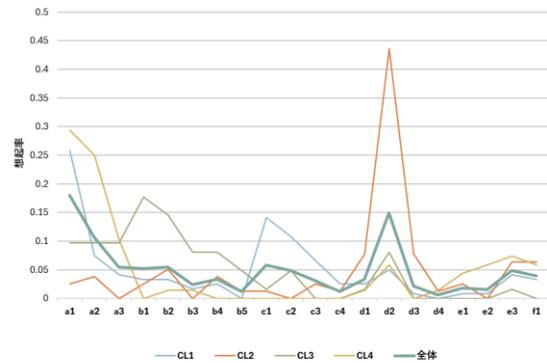


図-9 クラスター別の各コードの想起率

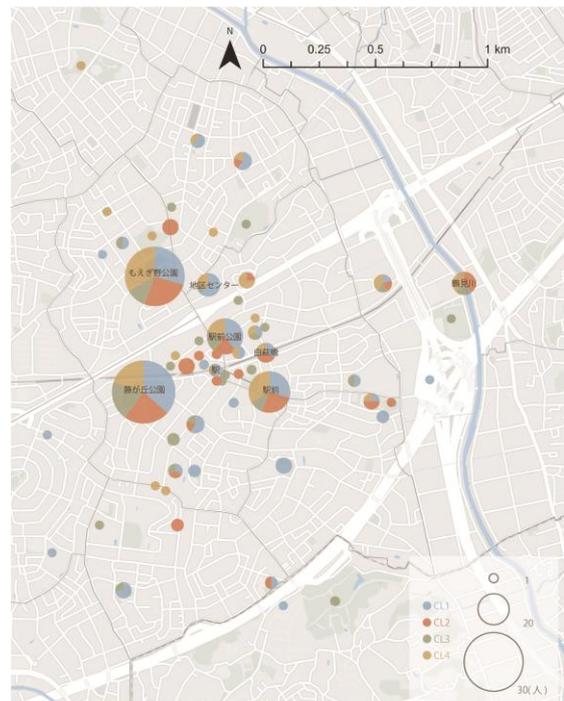


図-10 各クラスターの回答者の分布

b) 挙げられた大切な場所の意味

挙げられた大切な場所について、回答者の所属クラスターを円グラフに集計し図-10の地図上に示す。1人のみに挙げられた場所に注目すると、CL1、CL3の回答者が多い傾向が確認できる。また、複数から挙げられた場所の多くは、所属クラスターが混在しており、同じ場所が異なる文脈により大切に思われていることが示唆される。

5. 結論

(1) 研究の成果

本研究では、アンケート調査の回答から、まず大切な場所について地図上で可視化し、場所ごとに大切に思われる範囲が異なること、再整備対象範囲に大切な場所が集積していることが明らかになった(3-2節)。次に、経験に関する自由記述について、生成的コーディングによって20コードを抽出し、大切な場所における経験として、「親しい人との経験」「個人的文脈」「固有体験」「環境」「追憶」「アイデンティティ」の6つの分類を得た。また、年齢や場所による想起される経験の傾向の違いや、居住年数が長いほど想起が多様になる傾向が確認できた。(3-3節)。さらに、主成分分析により場所への意味付けの構造を抽出し、その結果を基にクラスター分析を行うことで、場所への意味づけにおいて何が重視されるかについて、4つの類型を得た(4-2節)。

(2) 考察と今後の展望

本研究では、大切な場所を意味づける経験について、年齢や居住年数により異なる傾向が確認できた。この結果は、地域での生活の積み重ねやライフステージの変化による経験の蓄積が、地域を見る視点を多様化させ、場所への思いや意味づけを重層化させることを示唆している。

また、藤が丘地域の大切な場所は再整備対象範囲に集中しており、特に駅や駅前公園において「追憶」や「アイデンティティ」の想起率、および想起エントロピーが高いことから、風景の変容が大切さを顕在化させていることが示唆された。再整備後も新たな愛着が育まれる持続可能なまちづくりの実現においては、機能更新や利便性の向上に加えて、多様な経験を誘発する場を確保することが重要である。

今後は、多摩田園都市内の他の地域で同様の調査を行うことで、地域特性と大切な場所やその意味との関連性を明らかにし、地域の固有性を活かしたまちづくりに寄与する知見が得られると考えられる。

<参考文献>

- 1) 国土交通省土地市場課:「居住地域に関する意識調査」の概要について、<https://www.mlit.go.jp/common/001208168.pdf> (最終閲覧日 2025年11月13日)
- 2) ランドルフ・T・ヘスター著、土肥真人訳:エロジカル・デモクラシーまちづくりと生態的多様性をつなぐデザイン, 第5章 聖性 Sacredness 鹿島出版会 pp.129-148, 2018
- 3) 伊藤夏歩・服部直樹・佐々木葉:長野県宮田村における想起された大切な場所の特質 景観・デザイン研究講演集 No.17, pp.299-306, 2021
- 4) 木場佳音・杉田早苗・土肥真人:個人の大切な場所が織りなすまちの構造の研究 一大岡山・千束地区を対象として一, 都市計画論文集 Vol.56 No.3, pp.975-982, 2021
- 5) 湯川竜馬・山口敬太・久保田善明・川崎雅史:日常生活圏における場所経験価値の評価手法に関する研究 土木学会論文集 D1 (景観・デザイン), Vol. 77, No. 1, pp.1-16, 2021
- 6) 豊田泰史・大塚芳嵩・今西純一:都市公園に対する近隣住民の愛着と利用形態の関連性 一韮公園周辺地域を事例として一, 環境情報科学論文集, Vol.36, pp.8-13, 2022
- 7) 石原加南子・太幡英亮:大学生を対象とした経験的側面から見る場所への愛着の形成パターンに関する研究, 日本建築学会計画系論文集 第85巻 第777号, pp.2297-2305, 2020
- 8) 森信修一郎・荒井歩:埼玉県八潮市における景観変遷と住民の景観認識に関する研究, ランドスケープ研究 pp.755-758, 2010
- 9) 藤澤奈緒・佐々木葉:風景の多元性に着目した地域認識に関する研究一鉄道の車窓風景を対象とした写真投影法を用いて一, 景観・デザイン研究講演集 No.8, pp.52-58, 2012
- 10) 中内和・山田圭二郎・高橋利之・川崎雅史:下北沢における景観体験・思いの意味に関する研究 一主体間の差異に着目して一, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol.74, No.2, pp.152-164, 2018)
- 11) 東急:多摩田園都市, <https://www.109sumai.com/about/development/dento> (最終閲覧日 2026年1月15日)
- 12) 横浜市:青葉区の主な統計データ一覧の概要, <https://www.city.yokohama.lg.jp/aoba/kusei/tokei/od.html> (最終閲覧日 2025年11月14日)
- 13) 横浜市:藤が丘駅前再整備基本計画, https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/jo-kyo/sonota/fujigaoka/kihonkeikaku.files/0075_20240321.pdf (最終閲覧日 2025年11月27日)